

2.5. 自己評価・相互評価

これまでの内容が決まっている教科学習では、「評価」といえば、教師の示した目標に、学習者（子供）がどの程度近づいたかを把握し、次の教育活動を決定していくものでした。しかし、「自分の生活について考え、自立への基礎を養う」ことをねらいとする生活科や、「学び方やものの考え方を身に付け、自己の生き方を考える」ことをねらいとする総合的な学習では、『自己評価・相互評価』が大事にされていきます。

自己評価とは

教師側が子供の姿などから、目標に向かってどの程度迫りつつあるか、という『評価』と違い、子供自身が、自分のそれまでの活動を振り返り、自分の目標の実現状況がどうなのか、自分で判断できる。また、以前の自分とは異なる、「こんなことができるようになった」「こんなすごいものを作ったんだ」といった実感をもつことができる。このように「自分を振り返り、新たな自分に気付く」ということが、これから考えていかなければならない『自己評価』となる。

相互評価とは

子供自身が、新たな自分に気付くためには、外部からの評価を知ることでもある。「○○君って、そんなことを調べたんだね。すごいな」といった、友だちの言葉で、それまで気付いていなかった自分の頑張った、あるいは成長した姿に気付く、有能感や満足感を得ることができる。そのためにも、子供たち同士の『相互評価』をする場面を大切にしていける必要がある。

実践から

町を探検する活動を考えてみます。子供たちは、自分たちが生活する「地域」にかかわっていき、様々なことを発見してきます。その後の表現活動で、自分の活動を振り返るとき、客観的に自分を見つめ直し、「お店の人にインタビューできた自分」、「今まで知らなかった場所を発見した自分」に気付いていきます。これが『自己評価』です。また、自分がよく知っている地域を友だちに発表し、「よく知ってるね！すごいな」など、友だちの反応を知った自分が、有能感を深めていきます。これが『相互評価』の効果です。